

2007年
かごしまのホームレス生活者
実態調査報告書



調査開始の数日前、桜島フェリー桟橋で行き倒れた A さんに捧ぐ

2007 かごしまのホームレス生活者実態調査実行委員会

目次

- p 1 ~ 3 「2007 かがしまのホームレス生活者」**実態調査報告**
- p 4 添付資料 1 「2007 かがしまのホームレス生活者」(以下省略)「**実態調査票**」
- p 5 添付資料 2 「**実行委員会形成の要請文**」
- p 6 ~ 9 添付資料 3 「**実態調査実施要綱**」と検討報告
- p 1 0 添付資料 4 「**実態調査ボランティア募集**」
- p 1 1 添付資料 5 「**実態調査実施マニュアル**」
- p 1 2 添付資料 6 「**支援カレンダー**」
- p 1 3 **まとめにかえて**

2007「かごしまのホームレス生活者」実態調査報告

「2007かごしまのホームレス生活者」実態調査実行委員会

1. 調査方法等

(1) 調査主体

鹿児島野宿生活者支えあう会（任意ボランティア団体）
鹿児島県社会福祉士会
鹿児島カテドラル・ザビエル教会夜回りの会
の3者で構成する

「2007かごしまのホームレス生活者実態調査実行委員会」で調査を行った。

(2) 調査期間

平成19年5月26日から6月7日

(3) 調査の方法

別紙の鹿児島市内21地区を調査対象の場所とし、
調査員が、調査期間内に、調査対象場所を時刻を変えて複数回訪問し、
別紙調査票に基づいて面接調査した。

なお、実際の調査時刻は、各地区により異なる。

また、面接の際、その本人を特定する事項（氏名、出身地等）
を聴取し、調査の重複を避けた。

2. 調査結果のまとめ

本調査は、鹿児島市が1月に調査を実施した地区を中心とする市内21地区を対象に、その域内のホームレス生活者の概数を調査することを主眼としたものであるが、次項3.表のとおり、62名の方を確認することができた。

本調査は、

ア．目視調査（鹿児島市の実施方法）ではなく、面接調査であること、

イ．面接の際、氏名等の本人特定事項をも聴取して行ったものであること、更に別紙「支援カレンダー」を通し番号を付けて配布したことにより重複を避けたことから、現時点での可能な限りの実数把握に近付けたと考えている。

なお、概数については、

ア．谷山地区の調査対象場所が産業道路沿いの緑地帯に限定したため、調査漏れがあったと考えられる。

イ．市役所その他の公共施設、パチンコ店等休憩施設のある施設内の調査では本人に確認ができなかったこと、などから、鹿児島市内全域におけるホームレス生活者の概数はより多いものと考えられる。

また、本調査においても、生活の本拠は確認できるものの面接することができなかった方を8名確認している。

3. 調査地点とホームレス生活者数

* 「未確認数」とは荷物や生活痕はあるが、調査期間中に確認ができなかった数

調査地点	確認数	未確認数	鹿児島市の 本年1月の 調査数
1. 鹿児島駅周辺(*多賀山公園・祇園之州公園等を含む)	6名		0人
2.鹿児島本港区(*桜島棧橋等を含む)	12名		16人
3.天文館(電車通り南側)	0名		2人
4.天文館(電車通り北側)	12名		2人
5.城山周辺	0名		0名
6.甲突川A(梅ヶ淵橋～護国橋)	0名		0名
7.甲突川B(護国橋～平田橋)	0名		0名
8.甲突川C(平田橋～甲突橋)	6名	1名	3人
9.甲突川D(甲突橋～天保山大橋)左岸	4名	2名	2人
10.甲突川E(甲突橋～天保山大橋)右岸	2名	1名	1名
11.鹿児島新港付近	0名		1名
12.与次郎ヶ浜	6名		1名
13.鴨池	1名	2名	0名
14.鹿児島中央駅付近	3名		2名
15.桜ヶ丘・唐湊・田上	0名	2名	1名
16.産業道路A(木材港入り口～小松原橋)	3名		5人
17.産業道路B(小松原橋～新地橋)	0名		1名
18.産業道路C(新地橋～交通安全C前)	4名		3人
19.産業道路D(光山公園他)	2名		3人
20.桜島	1名		1名
21.各施設(市役所お茶コーナー、パチンコ店、図書館等々)	特定できず	特定できず	
合計	62名	8名	(44名)

年齢構成

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
数	1名	0名	5名	9名	20名	5名	2名	20名

性別比

確認できた中で女性は2名だけであった。

4 . 調査票(次項)による当事者からの聞き取り等からの実態と今後の調査課題

【 際立った点 】

野宿生活者の多くは、男性であった。また、調査票中の(以前の職業)の回答を得られた中では、建設土木関連がほとんどであった。

【 排除と移動 】

調査票中の(現在、困っていること)の回答に警察からの職務質問や、公園管理課・国交省等からの勧告等を上げる方が3名あった。それを第一の困っていることに挙げるのは、そのために移動を繰り返さざるを得ないためだ。こうしたことで野宿生活者の生きる気力が奪われないかと心配される。

【 当事者の相互協力、他方の孤立 】

ホームレス生活者同士が2～3名ずつで生活しているケースが多く見られる。(またその真逆の孤立の実態はどうであろうか、今後の課題としたい)

【 行き倒れ 】

野宿のまま、亡くなっていた方があったとの情報も寄せられた。

【 労働意欲 】

調査票中の(現在、困っている事・相談したい事)に任意に労働関連で回答した7名の全員が「働きたい」「仕事が無い」との希望や働く意欲を答えた。

【 生活保護制度について 】

調査票中の(生活保護)の質問に対して、思い込みなどがあり、申請に踏み切れない人が回答者9名中の4名に上った。

また、以前に「生活保護」を受給していたが、再び野宿生活に戻った方が回答者中の5名あった。

【 調査・面接から 】

一人当たりの調査・面接の時間は予想以上にかかった。

それは、調査員に対して心情を理解してほしいと気持ちや日常生活の「寂しさ」「疎外感」があつてのことだと思われた。

【 今後の調査課題 】

谷山地区には、多くの野宿者がいるとの情報が寄せられた。しかし、今回は十分な確認までには至らなかった。

「かごしまのホームレス生活者」実態調査票

月	日	調査地点 No.	支援カレンダーNo.
* () 付きの質問は任意に行って下さい		調査員名	
		拒否・睡眠中	
性別	女性	男性	
年齢	才		
出身地	県		
特徴	_____		
ホームレス歴、期間	年	ヶ月	
(よろしければ) お名前を(ニックネーム可)			
ふりがな	_____		
姓	名		
(ケガや病気の有無)	無	有	内容
(以前の職業・持っている技能)			
(生活保護、または自立支援センターの経験) 無 有 内容			
(現在、困っている事・相談したい事)			

気付いたことや話した内容			

地図			

要請文

「3者(ザビエル教会炊き出しグループ・社会福祉士会・鹿児島野宿生活者支えあう会)協同で市民の手による鹿児島のホームレス実態調査を実現しましょう」

2007年5月10日

「鹿児島野宿生活者支えあう会・実態調査プロジェクト」

皆様には、鹿児島のホームレスの方々に対しての、ここ数年来の日常的な支援活動を継続されてきたことに改めて敬意を申し上げます。さて、早速ですが、私たちからのご提案は以下です。

調査の趣旨

2002年8月「ホームレスの自立支援等に関する特別措置法」(以下「自立支援法」)が10年の時限立法として公布・施行され、今年は5年目での基本方針の見直しの時期に当たります。すでに今年1月にはホームレスに関する国の全国実態調査が行われ、鹿児島市当局の手による調査も公開されました。しかし、鹿児島市の20ヶ所での調査内容は日頃の私たちの活動の実感とかけ離れたもので、その調査方法も実態把握の目的からは的確とは言えないものでした。こうした皆さんとも言える市当局の調査の様な内容が、全国規模でも行われ、それに基づいて自立支援法の基本方針の見直しが行われるならば、それは文字通り実態から離れた実効性のないものとなる外はないでしょう。

翻って私たち自身について言えば、活動の初期の原点でもあった「夜回り」活動を長く手がけることができないままで居ます。中央公園やザビエル公園での「おにぎり会」や「炊き出し」に來れない方々の実際は不明なままに過ぎてきました。これを機会にせめて鹿児島市内全域のホームレス当事者に声を掛け、支援活動の存在をお知らせしたいものだと思っております。

そして**地理空間としての調査の最終では、それを私たち自身の白地図に実態を反映させる必要がまずはあるでしょう。**めざすべきは「社会的にいかなる層が困窮の果てまで追い込まれ、ホームレスを余儀なくされているか」という実質的実態把握ですが、**今回の計画では、まずは基礎的調査の共有が必要だと思います。**

10年の時限立法が半分を過ぎようとしているのなら、その実態は国や市の施策の不十分性の反映でもあるはずで、これを機に**国や市の基本施策に対する私たちの基本視座を持つための一歩にしたいものだと思います。**

そしてこうした「市民自身が地域の実態を知る」という活動の原点を復活させて、私たちと似た、また更に深刻な現実に直面し頭をぶつけている、九州レベルさらに全国レベルのホームレス支援団体との協同活動にも参加していきたいと考えております。

御検討のほどよろしくお願い申し上げます。

資料 3

5月20日「かごしまのホームレス生活者」実態調査実行委員会 / 検討報告

5月16日(水曜)夜8時ころ桜島桟橋2Fで発見されたホームレスの方の御冥福をお祈りします

鹿児島ホームレス実態調査実施要綱

A. 3者による実行委員会

5 / 20、PM4:00よりボランティアセンター4Fにて

B. 調査日 5月26日(土)～6月2日(土)

調査時間はPM8:00～10:00とするが

調査地点・調査班によっては柔軟に対応する

C. 調査の方法

調査票に基づくサンプル調査とする

調査面談が困難な場合は目視とする

性別・年齢・特徴を票に記入

「6月のカレンダーに支えあう会とザビエル教会の支援内容を書き込んだもののコピー」を配布する。用意した部数と残部数で実数の把握ができる様に重複しない配布をする

面談場所を地図に落とす

D. 調査グループ

< 調査参加予定人数 >

* ザビエル教会 山田さん+ 炊き出しやシャワーの機会での調査を希望、他との重複に注意を要す

* 社会福祉士会 5名ほど+鹿国大生5名ほど

* 「支えあう会」から最大20名??

< グループ割り > F.へ

市の調査場所1ヶ所に最低2名ずつで。

調査員の名札は半B5版に平仮名で大きな文字で作る

E. 集約日 6月7日(木曜)PM6:00より ボランティアセンター4Fにて

F. 調査地点と調査員 ()内は市の把握した数、計44人、国の1月のデータでは県内53人

* 市の調査に準ずるも、21ヶ所(No21)とし、さらに注記*を付した

* 社会福祉士会(約5名)+鹿国大生(約5名)はチームを組み、調査地点としては天文館・甲突川沿い等を希望とのこと、なお下表では社会福祉士会+鹿国大生ボランティアを「社福+学ボラ」と表記した

調査地点	調査員(現在の志願者)
1.鹿児島駅周辺(*多賀山・石橋公園・祇園之州等を含む) (0人)	堀之内、池田(弟)、高群
2.鹿児島本港区(*桜島棧橋等を含む) (16人)	外山、吉海
3.天文館(電車通り南側) (2人)	芝田淳、青木、社福+学ボラ
4.天文館(電車通り北側) (2人)	芝田淳、青木、社福+学ボラ
5.城山周辺 (0人)	長野、芝田二三子
6.甲突川A(梅ヶ淵橋~護国橋) (0人)	野口
7.甲突川B(護国橋~平田橋) (0人)	野口
8.甲突川C(平田橋~甲突橋) (3人)	社福+学ボラ
9.甲突川D(甲突橋~天保山大橋)左岸(2人)	堀之内、池田(弟)、高群、社福+学ボラ
10.甲突川E(甲突橋~天保山大橋)右岸(1人)	堀之内、池田(弟)、高群、社福+学ボラ
11.鹿児島新港付近(*海沿い) (1人)	平、田上
12.与次郎ヶ浜(*海沿い) (1人)	川口、篠原
13.鴨池 (0人)	川口、篠原
14.鹿児島中央駅付近 (2人)	外山、吉海
15.桜ヶ丘・唐湊・田上 (1人)	小川
16.産業道路A(木材港入り口~小松原橋) (5人)	大坪
17.産業道路B(小松原橋~新地橋) (1人)	大坪
18.産業道路C(*特に「かけの橋公園」等) (新地橋~交通安全センター前) (3人)	馬頭、梅垣
19.産業道路D(光山公園他) (3人)	馬頭、梅垣
20.桜島 (1人)	芝田二三子、淳
21.各施設(市役所お茶コーナー、パチンコ店、図書館等々)	小川、皆吉、今田、青木

G. 調査票は次の通り(案)

番号はF.の調査地点番号を記入する

今回の調査は「実数の把握」と「野宿地点の把握」を重点とする、そのため調査の重複を避けるための質問を特に重視する。

支援カレンダーは決して重複して渡さないこと

<p>地図(調査員が用意、又は手書き)</p> <p>調査地点 No. <input type="text"/></p>	<p>月 日</p> <p>調査員名</p> <p>性別 拒否・睡眠中</p> <p>年齢</p> <p>出身地</p> <p>特徴</p> <p>ホームレス歴、期間</p> <p>(よろしければ) お名前を(ニックネーム可)</p> <p>(ケガや病気の有無)</p> <p>(以前の職業・持っている技能)</p> <p>(生活保護、または自立支援センターの経験)</p> <p>(現在、困っている事・相談したい事)</p> <p>気付いたことや話した内容</p>
--	---

H. 支援カレンダー

5 / 26までに用意、枚数200枚

5月20日「かごしまのホームレス生活者」実態調査実行委員会 / 検討報告
実施要綱への加筆

今回の調査は獲得目標として「**実数の把握**」と「**野宿地点の把握**」を重点としますので、調査の重複を避けるための質問と野宿場所の確認を特に重視することとします。

A. 調査日 5月26日(土)～6月2日(土)

5/26は、ザビエル教会の炊き出し終了後に「調査員集会」をもち、調査マニュアル(後日提案)・班分け等の確認を行う。当日の調査時間はPM8:00～10:00とするが、他の日は調査地点・調査班によって柔軟に対応する

E. 集約日 6月7日(木曜)PM6:00より ボランティアセンター4Fにて

F. 調査地点と調査員

* 社会福祉士会(約5名)+鹿国大生(約5名)はチームを組み、調査地点としては天文館・甲突川沿い等をご希望とのことで別表の内容を提案させていただきます。なお別表では社会福祉士会+鹿国大生ボランティアを「社福+学ボラ」と表記しました。

H. 支援カレンダーと名札

5/26当日に来れないメンバーのために5/24までに「支えあう会」事務局に用意します。支援カレンダーの枚数は200枚。支援カレンダーは決して重複して渡さないこと「これもう貰いましたか?」と必ず聞くこととします。

資料 4

ボランティア募集 !!

私たちといっしょに「鹿児島市のホームレスの方々の実態」を自身の手で

調べてみましょう！ 「かごしまのホームレス生活者」実態調査実行委員会

「鹿児島市のホームレスの方々の存在について」このことは、多くの市民にとって気がかりな事です。ことし 1 月、鹿児島市当局の手による「鹿児島市のホームレス実態調査」が公表されました。市内 20ヶ所でのその調査は、**私たち3者(ザビエル教会炊き出しグループ・鹿児島野宿生活者支えあう会・社会福祉士会)** の少なくともこれまで 3 年間の活動とホームレス経験者の意見などを踏まえると、残念ながら疑問が多いものです。

そのため、ホームレス支援対策についても、十分なものができているのか不安になってきます。

私たち「実態調査実行委員会」は、ホームレス当事者・経験者をメンバーとして、「炊き出し・おにぎり配り」といった日常のホームレス支援を積み重ねてきました。しかし、それは鹿児島市全域から見れば、極限られた範囲でしかありませんでした。

その立場から、何とか「鹿児島市全域のホームレスの実数・その生の声」の実態について、力を合わせて調査し「市の調査」を「上書き」する必要性を切実に感じています。

皆様、「気がかりな事」は自身で調べてみる事が基本です。今回の調査は、むずかしいことではなく、極基礎的な項目を把握することを目標にします。ぜひ、いっしょにその経験を共有できれば幸いです。

調査実施期間：5月26日(土)～6月2日(土)

実施方法：6月の支援カレンダーを配りながら、簡単な調査票を記入します

皆様からの御問い合わせ、御連絡をお待ちしております !!

なお「鹿児島野宿生活者支えあう会 平成19年度総会」と
NPO「かごしまホームレス生活者支えあう会」設立総会の後、
「**実態調査実行委員会**」を行います。

日時: 5月20日(日曜) 午後4時00分から

場所: かごしまボランティアセンター 4階 フリースペース

御問い合わせ先: 090-2502-6459

「かごしまのホームレス生活者」実態調査、ボランティア募集担当 堀之内洋一

「かごしまのホームレス生活者」実態調査実施マニュアル

- 1 . アプローチの際は各自の工夫で、おにぎり・たばこ・お菓子・コーヒー等を持参してもよいだろう。
- 2 . 「支援カレンダー」は重複して渡さない。
アプローチの際「これ貰いましたか？」と必ず尋ねる。
- 3 . 調査地点「21 .」の各施設や中央公園、ザビエル公園での調査の際は地点No .は、就寝場所を訊いて、そのNo .を記入する。

就寝中だった方について

- 4 . 就寝中の方には、起こさないよう注意を払いつつも、御本人が気付きやすい場所に「支援カレンダー」を置いてくる。
その際も調査票には調査地点や御本人の特徴他を記録するが、支援カレンダーのNo .も調査票に控えておく
- 5 . 火・木・日の中央公園と27日の調理会に「支援カレンダー」を持参した方で、調査票記入がまだだった方については、公園等で調査票に野宿地点No .他質問事項を記入し、集約日に就寝中の際に記入した調査票と差し替える

調査拒否する方について

- 6 . 「支援カレンダー」も受け取らず、置いても来れなかった方については、調査員が「支援カレンダー」を保管して、集約日に持参する。そうしたケースでも、調査票にカレンダーNo .を書き性別・特徴などの最低限を記入しておく

協力的な方について

- 7 . たとえ協力的であっても、御本人にとって立ち入り過ぎの質問と受け取られていないかどうか、注意を払う。
- 8 . 差し支えなければ、世間話のお付き合い程度から、今後の支援関係につなげて行く

想定外の場合はとりあえず090 - 2502 - 6459堀之内まで

資料 6

5月26日～6月2日の間、御参加の際は御持参して下さい

6月かごしまホームレス生活者支援カレンダー No



日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
						ザビエル公園炊き出し PM7:30～
					1	2
おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		ザビエル公園炊き出し PM7:30～
3	4	5	6	7	8	9
お弁当提供 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		ザビエル公園炊き出し PM7:30～
10	11	12	13	14	15	16
おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		ザビエル公園炊き出し PM7:30～
17	18	19	20	21	22	23
調理食事会 中央公民館 地下調理室 PM2時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		おにぎり会 中央公園 西郷銅像 直近東屋 PM5時		ザビエル公園炊き出し PM7:30～
24	25	26	27	28	29	30

「かごしまのホームレス生活者」実態調査実行委員会

(ザビエル教会・炊き出しグループ、社会福祉士会、「鹿児島野宿生活者支えあう会」)

連絡先「鹿児島野宿生活者支えあう会」

司法書士法人なのはな法務事務所鹿児島事務所

鹿児島市東千石町4番33号フィオーレ東千石902号

ご相談(無料)は何でもお気軽に フリーダイヤル 0120-920-353

TEL:099-814-8088 FAX:099-814-8089 E-mail nanohana@siren.ocn.ne

URL <http://www5.synapse.ne.jp/supporter/synapse-auto-page/>

1

.jp

- 12 -

まとめにかえて

「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」(以下、支援法)が 10 年の時限立法として制定されてから 5 年が経つが、鹿児島市の様な地方都市のホームレス生活者の現場には、極わずかな例を除いて同法に基づく特段の支援施策はないままである。(例:「熊本市での巡回相談員制度 2002 年 1 名で始まり今年 3 名に増員」等)

過去 2 回の行政当局による調査を振り返れば、鹿児島のホームレス生活者の数は、2003 年の調査で県内 80 名、鹿児島市に 64 名。今年 2007 年 1 月の発表では県内 62 名、鹿児島市に 44 名だった。ところが、私たち調査実行委員会が今年 6 月に行った本調査では、前掲の通り鹿児島市内に 70 名を確認した。調査漏れを推計しても現在では、100 名に満たないかとも思われる。

しかし、実際は 2004 年から始まった市民の自発的支援活動もあり、「生活保護制度」の活用によって、私たち本調査実行委員会を構成したひとつの「NPO 法人かごしまホームレス生活者支えあう会」(以下、支えあう会)が関わったケースだけでも昨年 50 名余、今年 30 名余が既に路上から卒業している。支援活動等がなければ、本調査数と合わせ少なくとも見積もっても 150 名前後の方が現在も野宿のままだったかもしれない。

この推定からして、2003 年調査の鹿児島市の数字 64 名が、当局のご努力にも関わらず、実態を十分反映していなかったことが想像される。こうした調査結果のためであるうか、鹿児島では「ホームレス自立支援実施計画」等は策定されていない。

しかし、ここ鹿児島でも、ホームレスの方の行き倒れや自殺の情報が、我々に寄せられただけでも、「支援法」施行 5 年目でありながら、今年になって既に 2 件ある。支援活動もなく、行政の保護にも繋がらなかった時期の悲惨さは想像に余りあると言える。また、P3 にあったように、鹿児島でもホームレス生活者に対する日常的な社会的排除の動きが存在する。帰る場を無くし、かりそめのその場所さえ追われるホームレス当事者の心情はいかばかりであろうか?

さらに、車上生活者やネットカフェ、24 時間のファーストフード店、サウナなどで過ごす不安定就労、生活困窮者は全国の傾向と同じく鹿児島でも増加しているだろう。こうしたニアホームレスの人々がホームレスに至るのは時間の問題という指摘もある。

幸い、鹿児島市の生活保護行政は厚労省通達「ホームレスに対する生活保護の適用について」(平成 15 年 7 月 31 日、社援保発第 0731001 号)の 1 及び 2 の(6)や 3(1)イの趣旨通りにほぼ運用されており、ホームレス生活者の申請を排除することなく、適切に保護が適用されている。したがって、「生活保護」によって畳に上がるホームレスの方は、今後も増えるだろう。

しかし、幾つかの懸念も浮上している、それは

1. 生活保護受給開始後の生活保護による「自立支援」が、就労指導一辺倒では、

- P3 に述べたように不安定雇用から再度路上に戻る人が絶えないのも現状である。
2. さらに、「生活保護」につなぐだけの活動ばかりでは、「生活保護」を受けたくない、受けられない諸事情があり、ホームレス生活の期間が長期化している「滞留層」の比率は相対的に増えていることになる。
 3. また、生活保護の受給等により畳に上がっても、その「関係の喪失」は解消されていない。アパートに上がってさらに「孤独」に苛まれる方もある様だ。
 4. 今後、ホームレス生活者だけでなく、「ニアホームレス」の方への支援活動も、さらに充実させていく必要がある。といった諸課題といえるだろう。

この様に、本調査ならびにこれまでの支援活動等から主に鹿児島市の現状について不十分ながらスケッチしてみたものであるが、以下で、本調査実行委員会を構成した3団体の本調査以降の活動も、鹿児島でのホームレス支援活動として紹介して結びとしたい。

まず、ザビエル教会夜回り会は、3年前から独自に、毎週土曜日の炊き出し他を実施し、それをさらに充実すべく継続している。また、社会福祉士会ホームレスサポート委員会は、本調査終了後も月1回の夜回り活動で個別面談調査を実施し、またそれを鹿児島市地域福祉課の職員の方にも呼びかけて、継続している。「支えあう会」は、上記2.について、会と関係している「便利屋なのはな」や「ビックイシュー誌」等による仕事開拓が重要度を増している、との認識から更に力点を置いている。又、上記3.について、畳に上がった方が増えた分、これまで、既に会が1年以上継続してきた月1回の調理・食事会だけでなく、現・元ホームレス生活者が集える場・機会をさらに工夫していき、相互関係を充実させていく必要の比重が増しているだろう、と考えている。そして、これまでの、週3回のおにぎり+支援物資提供の際の相談活動と月1回の夜回り活動を継続すると共に、先の諸課題をはじめとする「トータルサポート」をめざして、行政・諸事業所・非営利諸団体とのパートナーシップの開拓に臨んでいきたい、としている。

加えて去る10月9日、「支えあう会」も参加している「九州ホームレス支援団体連合会」は、国のホームレス支援法の「基本方針」の見直しの時期にあたり、厚生労働省に「提言」を提出した。本調査報告で不十分ながらも明らかにできた鹿児島市の現状に鑑み、この提言が国の諸施策に生かされることを切に望むものである。

編集を担当して 堀之内洋一

補遺 なお、厚労省通達「ホームレスに対する生活保護の適用について」(平成15年7月31日、社援保発第0731001号)の1及び2の(6)や3(1)イについては「厚生労働省法令等データベースシステム <http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/index.html>」で検索できる